

文部科学大臣賞

受賞者名

群馬県立利根実業高等学校 森林科学部

取組の実践場所

群馬県利根沼田地域（沼田市・昭和村・みなかみ町）

受賞テーマ

Bamboo Lab！～無価値からの挑戦～

地域で続ける増やさない整備活動への仕組みづくり物語

竹を「捨てるもの」から「使い続ける資源」へ

受賞者の活動は、地域の放置竹林を整備しながら、竹やタケノコを無駄なく活用し、地域の中で循環させる仕組みづくりを行うものである。

竹林を整備し、伐採した竹を搬出 → 竹は窯焼きにより「竹炭」として再活用
→ 竹炭は農地へ還元し、土づくりに活用 → タケノコは収穫し、直売所などで販売
→ 規格外のタケノコは加工品（コロッケ）として再利用

さらに、高校生が中心となり、タケノコの選別方法を地域の人々へ伝えるなど、技術と価値を地域に広げる活動も行っている。

また、商品を扱ってもらう店舗には「竹林整備協力店」として認証を行い、消費がそのまま環境保全につながる仕組みもつくっている。

この取組の特徴は、単なる環境活動ではなく、続けられる仕組みとして設計している点にある。

- ① 無駄を出さない資源の使い方：廃棄せず、最後まで使い切る工夫
竹 → 竹炭として再活用 タケノコ → 規格外も含めて商品化
- ② 経済とつなげている：活動を“ボランティア頼み”にしない
タケノコの販売 加工品（コロッケ）としての商品展開 協力店制度による流通
- ③ 学びながら地域に関わる：学びがそのまま地域の力になる
高校生が主体となって活動 選別技術などを地域へ指導
- ④ 消費者も参加できる仕組み：誰でも関われる環境づくり
商品購入＝竹林整備の支援 協力店の見える化

「点」ではなく「流れ」で考えている。

多くの竹林整備は「伐採して終わり」になりがちであるが、同校の活動はその先までつなげている点に特徴がある。

- ① すべてがつながっている：1つの資源を何度も活用
竹林整備 → 竹炭 → 農業、タケノコ → 販売 → 加工
- ② 捨てるものを減らしている：「もったいない」を仕組みで解決
規格外タケノコも商品化、竹も廃棄せず資源化
- ③ 人が育つ仕組みになっている：活動が人材育成にもつながる
高校生が教える立場になる、地域の技術向上につながる
- ④ 地域全体で支える形にしている：一部の人に負担が偏らない
協力店制度で企業も参加、消費者も間接的に参加

